

共通選抜での合格者の決め方は、学力検査点と調査書点を別々にそれぞれ数値の高い順に並べ、学力検査点の募集人員（特色選抜合格者を引いた数）の上位80%以内で、調査書点順位が募集人員（同様）の100%以内の者を原則として合格、残りの枠は学力検査

重視か調査書重視かどちらかの方法を使って合格者を決めるという方式です。

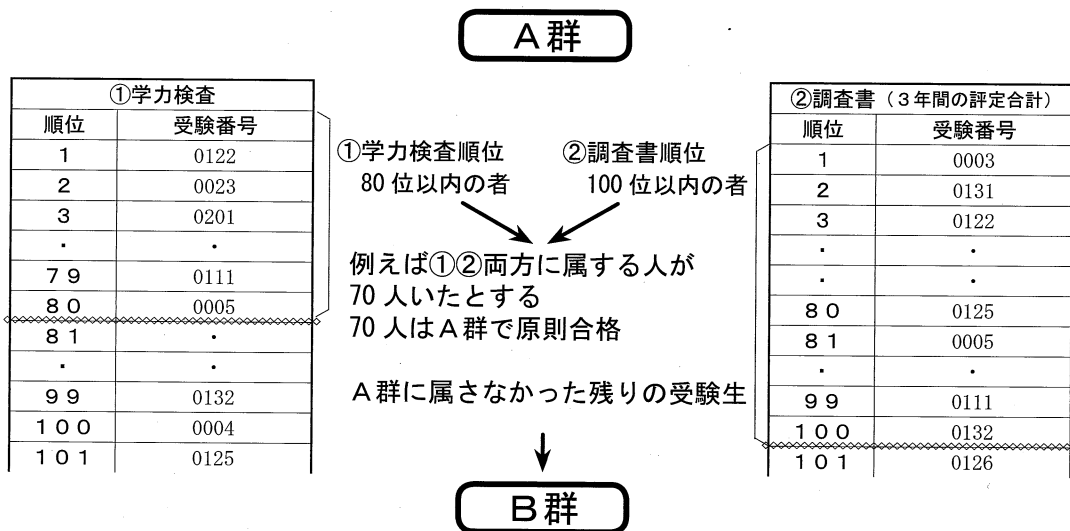
調査書点は、調査書の評定3年間の合計（45×3年間＝135点満点）により順位をみます。

《 共通選抜 合格者の決め方 具体例 》

調査書と学力検査を別々に順位付けし、学力検査が募集人員（特色選抜合格を引いた数）の上位80%に入って、かつ調査書点が募集人員の100%以内にいる生徒をまず合格とし、残りの枠については調査書重視、学力重視のいずれかの方法で決める。

【例】 募集人員が100人で110名受験した場合

- ① 受験者全員について、学力検査の得点合計の高い順に並べる。
- ② 受験者全員を、調査書の評定合計（3年間）等の高い順に並べる。
- ③ 同一人について、①募集人員の80%、②募集人員の100%の人数以内にある者をA群とする。
- ④ A群に属する者は、原則として合格とする。



⑤ B群の中から残りの定員の合格者を決める

【例】 募集人員の残りの人員 (100-70)=30人

B群からの合格者の決め方

学力検査重視、調査書重視のいずれかの方法を使って合格者を決定する。

その際、2つの方法を使う人員の割合は、

学力検査重視：調査書重視＝ 20:80, 30:70, 40:60, 50:50, 60:40, 70:30 80:20

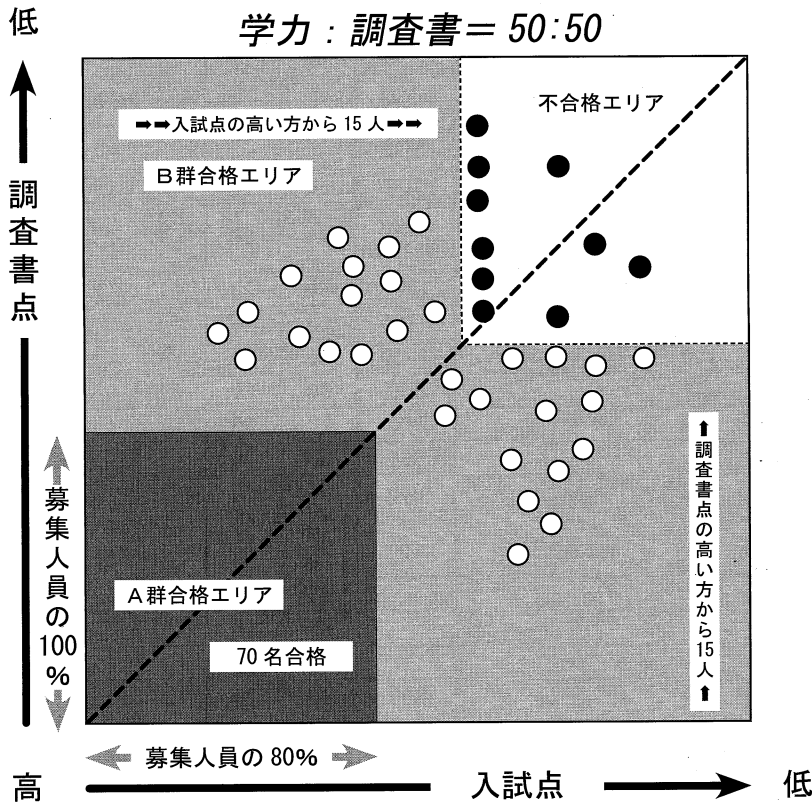
【例】 残りの人員が30人の場合⇒ (6人:24人) (9人:21人) (12人:18人) (15人:15人) (18人:12人) (21人:9人) (24人:6人)

の中から高等学校が決める。

なお、調査書重視の選抜における評定以外の利用項目については、観点別学習状況、部活動・特技等の記録、特別活動の記録などの中から高等学校が決める。

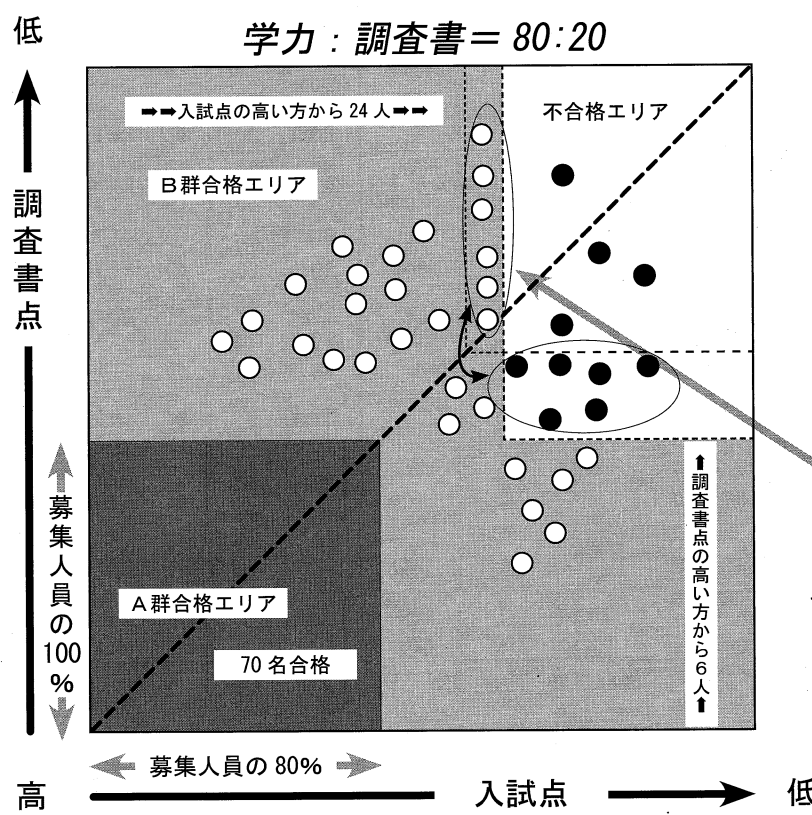
合格範囲シミュレーション

定員 100 名・受検 110 名・合格 100 名
 A 群に 70 名合格 B 群から 30 名合格 と仮定



学力検査と調査書の比重
 50:50 の場合

入試点の高い方から 15 名
 調査書点の高い方から 15 名選考



学力検査と調査書の比重
 80:20 の場合

入試点の高い方から 24 名選考
 $(30 \times 0.8 = 24 \text{ 名})$
 調査書点の高い方から 6 名選考
 $(30 \times 0.2 = 6 \text{ 名})$

調査書点は低いが
 入試点が高かったため
 合格

80:20 の学校と 50:50 の学校では
 ±9 名枠のうち、±6 名の合格
 が入れ替わった例を左表 2 つで示
 しています